

## 第 1 回 宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画審議会 議事録

日 時	令和元年 7 月 1 日（月）19：00～20：30
場 所	宗像市役所 第 2 委員会室
委 員	池添昌幸会長（福岡大学）、上小澤ひろみ副会長（東郷地区コミュニティ運営協議会）、南博委員（北九州市立大学） ※牧敦司委員（株式会社醇建築まちづくり研究所）、横山麻季子委員（北九州市立大学）は、欠席。
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 財政課長挨拶</p> <p>3 委嘱状交付</p> <p>4 会長及び副会長互選</p> <p>5 会長挨拶</p> <p>6 諮問</p> <p>7 出席者自己紹介</p> <p>8 審議内容</p> <p>（1）審議会の運営について</p> <p>①審議会の公開・傍聴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：資料 3 の説明</li> <li>事務局：本審議会も公開、市民の傍聴も認めるといふことにしたい、この点で審議をお願いしたい。</li> <li>委員：現行計画の策定時も公開傍聴だったため、意見がなければ本審議会も公開傍聴としたい。</li> <li>全員：異議なし。</li> <li>事務局：公聴をする際は、公聴希望を提出してもらい、傍聴者名簿の記入をしていただくこととしている。第 1 回審議会については、HP にて公開していたが傍聴希望がなかったので、公聴なしということになる。</li> </ul> <p>②審議会の会議録の作成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：資料 3 の説明</li> <li>委員：現行計画の策定時と同様、発言者の発言ごとに該当発言の要点を記録する方法とし、事務局の発言は事務局と記載する。</li> <li>全員：異議なし。</li> </ul> <p>（2）推進計画の見直しについて</p> <p>①計画見直しのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：資料 4 及び別冊 1 の説明</li> <li>委員：修正内容についてはページを追って確認していきたい。改訂版との比較の中で、現行計画の内容について何かあればその際に確認することにした。</li> </ul> <p>&lt;財政計画につて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員：財政状況の分析について、ご意見、質問はあるか。</li> <li>委員：厳しい財政状況にあることを市民はどれほど認識しているのか。認識をしているかしていないかで本計画の受け止め方は大きく異なるのではないか。</li> <li>事務局：財政状況の悪化については、数年前から予測できており、福祉の財源や公共施設の維持・更新費用に膨大な費用が必要になることは、広報や議会等で伝</li> </ul>

えてきた。ふるさと納税等の臨時的な収入で支えられた部分もあり、財政状況が目に見える形で悪化しているわけではないが、将来に向けた備えをしておかないと、市民に迷惑をかけるということは広報誌やHP等で公表している。同時に財政計画の見直しも進めており、修正後には市内全体に説明会で巡回する予定である。その中でアセットマネジメント推進計画も説明していきたい。

- ・ 委員：財政見通しを計画の中に反映していかないといけないが、事務局としてどのような考えを持っているのか。
- ・ 事務局：財政計画とアセットマネジメント推進計画は両輪である。管理運営費用に関しても今回の計画の中ですり合わせを行っていきたいと考えている。
- ・ 委員：760億円の見直しも見直すことになるのか。
- ・ 事務局：第2章は、次回の審議事項としており、その時に具体的な数値を示したい。今回は、財政計画が厳しくなる中での計画見直しということを認識していただきたい。

#### <見直しのポイントについて>

- ・ 委員：厳しい財政状況への対応について、ライフサイクルコストの導入とは具体的にどのようなことを想定しているのか。
- ・ 事務局：ランニングコスト（水道・光熱費等）に加え、施設を廃止・更新するまでにかかる費用がライフサイクルコストである。現行計画は更新や長寿命化の改修部分しか費用として加えておらず、今回はそれ以外のすべてのコストを踏まえて検討していきたいと考えている。
- ・ 委員：ライフサイクルコスト縮減については、どこの章に入ってくるのか。
- ・ 事務局：施設間の費用比較の際に用いれば、どの施設を対象として総量圧縮を達成するのかが見えてくると考えている。
- ・ 委員：維持管理と費用・更新費用は別財源だと思うが、それを合わせて財政見直しを考えるとという理解でよいか。
- ・ 事務局：現行計画は、工事に係る費用を積算しているが、財政状況が厳しくなる中で、維持管理コストを見ていかないといけないと考えている。施設一体でかかる費用を踏まえたほうが良いというのが現時点の事務局案である。
- ・ 委員：目標の設定というより、維持管理費用の現状把握から始めるという理解でよいか。
- ・ 事務局：維持管理費用の把握により、施設の面積及びその工事費の総量の圧縮に加え、それに伴う維持管理費用の圧縮も今回の計画の中で見定めていきたい。
- ・ 委員：見直しの方向性としてはよいと思う。市民の目線から計画見直しのポイントの中に「固定資産台帳の反映」とあるが、市民としては固定資産台帳の反映というよりも、計画対象施設の精査を行ったというタイトルの方がよいのではないかと。また、「更なる施設長寿命化の検討」の横に「学校教育系施設との差別化」とあるが、表現が不適切であるため修正を行った方がよいのではないかと。
- ・ 事務局：ご指摘の通り修正したい。計画の中には、施設の利活用など市民の生活に直結する部分もあるため、学校長寿命化施設との差別化については、各施設の長寿命化の考えにバラツキがある中で、学校施設長寿命化計画は施設使用年数が80年となっているが、それにあわせるのか、その差別化が必要なのか審議いただきたいという思いで記載した。100㎡未満の施設も対象としたいという話をしたが、その他に分類する施設が多くなる、その点もどういった表記が良いかのご意見いただきたい、野球場、プールなど、一部の工作物も取り出した方が良いかについても今後議論いただきたい。また、現時点では、建物を対象にしているが、野球場やプールなどの工作物の取り扱いについても協議をお願いしたい。

<100 m<sup>2</sup>未満の施設の取り扱いについて>

- ・ 委員：100 m<sup>2</sup>未満の施設には、どのような施設があがってきているのか。
- ・ 事務局：消防団の格納庫等が入ってきている。他の市町村では、その他の中に施設分類をつくっているところもあるので、そのような書き方にした方がいいのではないかと考えている。100 m<sup>2</sup>未満についても、利用区域分類と用途分類をクロスして整理した方がよいのではないかと考えている。
- ・ 委員：新しい分類をつくるなどして、その他の個数を圧縮した方がよい。消防団は地域施設、ごみ処理場はインフラ系施設など、当てはまる施設分類をつくり、事務局より提案をして欲しい。
- ・ 事務局：今までの分類よりも細分化しても良いということか。
- ・ 委員：現在は、その他を入れて8分類であるが、新しい分類を入れてその他を整理した方がよければ、新しい分類をつくってはどうか。
- ・ 事務局：100 m<sup>2</sup>未満の施設については、対象に入れてもよいか。また、100 m<sup>2</sup>未満の施設を加えると、面積が大きくなる、ライフサイクルコストの考えに基づくと維持管理費用がかからないわけではないので対象としたいと考えているが、そのような考えで良いか。
- ・ 委員：施設面積に関係なく、市民の安全を守るためには入れていただいた方がよい。面積で優先順位が高まることはないと思うので、すべての施設を入れておいて欲しい。その上で優先順位をつけて欲しい。
- ・ 委員：現行計画では施設毎の方針を記載しているため、100 m<sup>2</sup>未満の施設を省いたと認識している。100 m<sup>2</sup>未満の施設を入れてもよいが、1施設1施設について更新時期等を記載するとページ数が多くなる。そこはどう考えているか。
- ・ 事務局：現行計画に位置付けている施設は個別に示していきたいが、100 m<sup>2</sup>未満の施設は、機械的に更新時期を入れるなどして、算出していくことを想定している。
- ・ 委員：ライフサイクルコストの考えに基づくと1施設1施設を積み上げていかないと対象を入れる意味がないのではないかと。算出はきちんと行った上で、計画書にはまとめて記載するとした方がよいと思う。
- ・ 委員：100 m<sup>2</sup>未満の施設を計画対象にすることは承認する。記載の仕方は、今後、市としても検討して欲しい。また、「元大島行政センター」は、その他の施設であるため、修正して欲しい。

<見直しポイント：厳しい財政状況への対応について>

- ・ 委員：現行計画は構造別に耐用年数を設定しているが、今回は学校教育系施設のみ80年に変更するという理解で良いか。
- ・ 事務局：70年の耐用年数を活用したいが、費用がおさまらない恐れがあるため、今以上に費用の平準化をする必要が出てくる可能性がある。施設そのものから考えると70年の耐用年数が妥当だと感じているので、学校とは差別化を図った方がいいかと感じている。
- ・ 委員：いろいろご意見がでたが、見直しのポイント自体は審議会として承認するというので良いか。
- ・ 全員：異議なし。

**②これまでの経過**

- ・ 事務局：別冊2の説明

<修正内容>

- ・ 委員：計画の見直し内容について、現行計画の時点修正ということはよいが、現行計画がきちんと機能したかについて、表現する必要があるのではないかと。12・

13 ページを見ると、計画策定時に建設計画をしていた施設が実際に建設されるということは、理屈としてわかるが、計画策定後に新たに機能転換や廃止された施設がないため、新しい施設が単に増えているように見える。

- ・ 事務局：13 ページについては、現行計画策定時に建設計画が進んでいた施設、短期間で新築された施設がある。新築された施設は政策として建設されたものもあるため、市民に説明していく。計画が機能した部分があれば、そうでない部分もあるため、事務局側の視点を今後示し、見直し計画の中でご審議いただきたい。
- ・ 委員：13 ページについては、平成 25 年以降に建設された施設とすると改訂した部分（新規で増えた施設）がわかりにくいため、平成 25 年～平成 26 年に建設された施設と平成 27 年以降に新設された施設と分けて書いた方がいいのではないかと。
- ・ 事務局：当初案としては、前期からの見直しとしたので、前期を盛り込みつつ時点更新をした。計画内容を伝えるべき相手は、市民であるため、書きぶりも再検討したい。
- ・ 委員：学校施設の数え方が 41 施設から 22 施設に変更されている。41 施設には校舎の数が含まれているが、今回は学校数にしたということか。校舎毎に建設年度が異なり更新年度も変わるため、このような校舎別に数を拾っていたはずである。
- ・ 事務局：現行計画では、給食施設が別施設として計上されているが、給食室は自校式で、学校と一体的に管理するためにこの数え方としている。
- ・ 委員：学校施設の数え方について了解した。
- ・ 委員：気になるころがあれば、事務局に連絡して欲しい。時点更新ということで、序章・1 章については、現在のままでもよいと感じている。表紙は、推進計画のタイトルになっているため、改訂版を入れて欲しい。
- ・ 事務局：表題の下に（改訂版）を入れる。
- ・ 委員：序章・第 1 章の改訂版については、これまでの意見を踏まえて修正を行ってもらい、承認としたい。

### ③今後のスケジュール

- ・ 事務局：審議会は、8 月・11 月・1 月・2 月とする。8 月の審議会でアンケート内容を審議していただきたい。アンケートは、前回計画時に行ったアンケートと同じアンケートでよいかを審議していただきたい。1 月には、パブリックコメントについて審議をしていただきたい。
- ・ 委員：アンケートの結果は、第 2 回審議会の資料に反映させる内容なのではないか。第 3 回・第 4 回で審議する場合は、第 2 回の内容に立ち戻って考えなくてはいけない。アンケートを再度行う必要はあるのだろうか。
- ・ 委員：今回の見直しは、財政的な状況の変化による修正部分が多いため、何のために行うアンケートを行うのか考えた方がよい。
- ・ 事務局：現行計画時からの市民の皆さんの意識の変化を見たい。財政状況の変化をアンケートの中で説明しながら、アセットマネジメントに関する考えを聞きたいと思っている。第 2 章は計画の重要な部分であるため、アンケート結果を振り返り、計画に反映させる必要がある。
- ・ 委員：行政のアンケートとして、課題の周知が目的であれば、行う意味はある。しかし、前回は財政状況を説明せずに行った調査であるため、前回と今回の単純比較はできないのではないかと。厳しい財政状況であることを伝えるということは必要であるが、今回の調査結果は単体のものとして整理したほうがよいのではないかと。

か。

- ・ 委員：以前のアンケートは、紙でのアンケートだったのか。現役世代は、紙のアンケートでは回答しづらいので、スマートフォンで回答できるような方法も視野に入れてはどうか。
- ・ 委員：2章・3章は重要な章であるため、次回以降の会での重ねての審議が必要になると思う。

### **(3) その他**

- ・ 8月の審議会は、日中に開催することとする。

以上

## 計画見直しの3つのポイント

計画対象施設の見直し		
1	① 施設別延床面積の精査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台帳に基づく時点修正</li> </ul>
	② 計画対象施設の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての建物を原則対象</li> <li>・野球場の取り扱い</li> </ul>

厳しい財政状況への対応		
2	① 総量圧縮の数値目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政収支の不足解消</li> <li>・用途分類別の設定</li> </ul>
	② 更なる施設長寿命化の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の使用年数の見直し</li> </ul>
	③ ライフサイクルコストの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設別方針の見直し</li> <li>・施設経営の透明性</li> </ul>

庁内推進体制の強化		
3	① 専門的部署の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期後期計画に向けた機構</li> <li>・統括と施設管理者の役割</li> </ul>
	② 予防保全の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な建物調査の実施</li> </ul>